

## 演劇科の取り組みを通しての「こころ豊かな人づくり」 ～「正しい姿勢」「美しい言葉」「豊かな表現」～

兵庫県立宝塚北高等学校  
主幹教諭 竹本 裕子

### 1 取組の内容・方法

#### (1) 学校、演劇科概要

本校は、宝塚学区（宝塚市）内にある4つの県立高校（宝塚、宝塚東、宝塚西、宝塚北）の中では最も新しい高校である。設置学科は普通科と演劇科、グローバルサイエンス科で、演劇科、GS科は県下全域から出願可能であり、普通科も第2学区全域から出願可能である。演劇科は、「芸術に対して理解と愛情を示し、芸術文化の発展に寄与する人材育成」を目標としており、高校生として基本的な学習を行いながら、演劇に関する専門の科目を学んでいる。また、地域社会や養護学校等との交流を通して、協調性を養い、こころ豊かで生き生きとした人格、礼儀正しく、あらゆる活動に意欲的に取り組む生徒の育成に取り組んでいる。さらに、演劇科専門科目の学びの集大成として、例年3年生の6月に、ピッコロシアターで卒業公演を実施している。第33回である昨年度は「OH! あらし（「テンペストから）」を演じた。この卒業公演は、3年生の考査を兼ねるとともに、1・2年生にとっては、専門科目「舞台技術」の実践の場となっている。これらの学びから、「正しい言葉」、「美しい動作」、「豊かな表情」等の表現力を総合的に陶冶するとともに、情操を豊かにし、創造性と強調性を養い、あらゆる芸術に対して理解と愛情を示し、調和のとれた、健全な、より望ましい人格の形成をねらいとしている。

(写真1 令和元年度卒業公演)



(写真2 伝統芸能授業)

#### (2) 演劇科の専門科目、行事

- ①劇表現…アクセントや発音，体の動きなどの基礎訓練，また，演技の基本となる事柄を学習する。
- ②伝統芸能…能や狂言など，日本の伝統芸能を学び，実技訓練を行なう。
- ③舞台技術…舞台装置，舞台美術，舞台照明，音響効果，舞台衣装，舞台化粧などを学び，制作などをする。
- ④舞踊…クラシックバレエやモダンダンス，日本舞踊など，演劇に必要な動きの基本となる舞踊の知識，技能を行なう。
- ⑤演劇論…世界の演劇の種類や演劇の要素など，演劇に関する基礎的な知識について学習する。また，古典的な名作や，近代および現代の代表的な戯曲を読み，作品の読解などを行う。



(写真3 舞踊授業)



- ⑥歌唱表現…歌唱法を探究し、楽曲の社会的背景や歌詞の意味を踏まえた表現法や、舞台芸術に関する歌唱表現を学ぶ。
- ⑦作品研究…イギリスやアメリカの戯曲を英語の原文で研究する。原文でのリーディング上演にも挑戦する。
- ⑧劇作…ストーリーを組み立て、戯曲を書くなどを行なう。完成した戯曲を演劇部などに提供したり、コンクールに出品したりする。
- ⑨総合的な学習の時間…舞台技術探究、劇表現探究を行う。また、1、2年生の夏休みに劇作講座、舞台技術実習、日本舞踊などの集中講義を行う。
- ⑩特別講義…わが国を代表する大学教授、劇作家、演出家、芸能人を招いた集中講義を行う。
- ⑪校外学習…すぐれた芸術に接して情操を豊かにし、感性を磨くため、観劇や見学の機会を多く持つ。

### (3) これまでの取組

#### ①演劇科長として

本校演劇科は、1985年（昭和60年）開校と同時に、全国初の公立高等学校の演劇科として設置され、今年度で35年目を迎える。昭和60年から平成25年までは、特別非常勤講師が科長を務めていた。教諭以外が29年間演劇科の科長を務めていたため、学校の中で、「演劇科だけは特別」的な事柄が多く、情報共有や協力体制が十分でなかった状態に対して、校内の一専門学科として、校内での協力・連携体制を構築し、以下の改善に取り組んだ。

- a 「日々の授業などを大切にすること」を重要視し、担任などとの連携を密にし、「演劇だけ頑張る」のではなく、すべてのことにしっかり取り組むことのできる人間教育をめざす取組み（授業への取り組み、課題等の提出、清掃活動の徹底、行事への積極的な参加等）を行い、演劇科に対する他教員の理解を深めた。
- b 演劇科の特別非常勤講師の方々に、学校全体の考え方や姿勢、様々な情報等をしっかり伝達することで、学校の教育活動を踏まえた上での、演劇科の取組みを行うことができるようになった。
- c 演劇科の取組みを学校全体に開くことで、他科の教職員が演劇科の方針や目的を知り、プログラムに積極的に参加し、協力することが容易になった。
- d カリキュラムマネジメントを積極的に行い、演劇科の教育プログラムを整理、改善した。劇作や特別講義の講師、特別非常勤講師などを外部から登用し、外からの風を取り入れることで、演劇科内の膠着した人間関係を改善した。
- e 学校全体で応援される演劇科をめざすとともに、演劇科、GS科、普通科の三科がそれぞれ刺激し合うことで、学校全体として発展することを意識し、日々リーダー（主幹教諭）として取り組んだ。
- f 外部の専門家などと連携し、演劇科専門科目として「劇作」という授業を行い、英語で劇作についての知識などを学ぶなどし、演劇についての視野を広げるとともに「主

(写真4 校内発表風景)



体的・対話的で深い学び」のプログラム構築に取り組んだ。

g 県立ピッコロシアターと連携し、演者だけでなく、照明、大道具、舞台芸術など演劇についての様々な取組みを行うとともに、3年生の6月に卒業公演という形でピッコロシアターで3部公演を行い、専門的な知識、技術を学び、それを演劇科の学びにつなげた。

h 地域・外部連携として、アポロンシアターと題して、幼稚園児を演劇科専門棟「アポロンホール」に招き、約40分の演劇科1年生による公演と交流や、県立上野ヶ原支援学校、西宮市立養護学校との歌やダンスやゲームなどでの交流、福祉施設「希望の家」、「まどか園」、「ななくさ育成園」などで公演、交流を行うなどの取組みを行った。

(写真5 地域イベント出演)



i 演劇科のカリキュラムマネジメントにも取り組み、演劇科の3年という短期の視点だけでなく、「演劇を通じた人間教育」を中・長期の視点で捉え、大学、外部専門施設等との新たな連携も推進し、生徒の「主体的・対話的で深い学び」のプログラム構築に取り組んだ。

j 令和2年2月1日に行われる県教育委員会主催の「阪神・淡路大震災25年 高校生による絆コンサート～未来へつなぐ～」(県立芸術文化センター)に、演劇科1・2年生が出演し、朗読を行なった。演劇科科長としてコンサートを盛り上げる一役を担った。

(写真6 高校生による絆コンサート)



## ②演劇部顧問として

演劇部の顧問としても、熱心に活動し、前任校で近畿地区高等学校演劇研究会、兵庫県高等学校演劇研究会の会計、兵庫県高等学校演劇研究会神戸支部常任委員を務め、本校に赴任後も阪神支部で常任委員を昨年度まで務めた。

## ③主幹教諭として

主幹教諭として、教頭の補佐役を担い、校務の整理を実施するとともに、教員の働き方改革にも率先して取り組み、教員の代表としてリーダーシップを発揮し、例えば、若手教員の相談に親身になり、適切な助言等を行うなど、若手教員育成の一端を担うとともに、多くの教員のサポートを行った。

## 2 取組の成果

特に演劇科長として、演劇科の企画・調整・広報活動などを積極的に行い、演劇科の素晴らしい活動、地域を元気にする貢献活動などを、まず、学校の内部に開いたことで、校内での演劇科に対する理解、共有、共感を構築することができた。また、それらの取組みを、学校外部、地域などに大きく開き、地域に貢献にもつなげたことで、演劇科の理解、学校への理解にもつながり、学校全体のさらなる発展につながるとともに、演劇科の生徒一人一人の「心」を育てる人間教育にもつなげることができた。また、演劇を通じたカリキュラムマネジメントの取組みは他府県の高校にも影響を与え、本校演

劇科への視察・見学などの希望も多く、演劇を活用した新しい学科の一つのモデルとなり、全国の新しい演劇を通じた学びに大きな影響を与えることができた。兵庫県が全国に先駆けて設置した演劇科のさらなる充実・発展に貢献することができた。

### 3 課題及び今後の取組の方向

今回、紹介した取組は、平成 25 年以降、演劇科長として取り組んだ事例の一部であるが、これらの取組は演劇科設置以来積み上げてきた財産があってこそだと感じている。演劇科の取組を通し、「正しい姿勢」「美しい言葉」「豊かな表現」を大切にした「こころ豊かな人づくり」を継続させ続けるために、以下の 3 点を今後の課題と考える。

#### (1) 生徒募集

少子化が顕著に表れてきた現在、各都道府県にも演劇の専門学科やコースなどが設置され、兵庫県内においても各学校が特色ある取組を行っている。本校の演劇科は定員が 40 名である。過去、募集人員に対しての出願倍率が 3 倍を超える時期もあったが、徐々に出願者数も減少してきている。今後は 40 名の定員を充足させ続け、演劇科のめざす生徒づくりを続けるため、中学生に、保護者に、地域の人々に、卒業生に、全ての人々に本校演劇科の魅力を伝え続け、生徒募集の面でも頑張り続けなければならない。

#### (2) 指導者の世代交代

本校演劇科では、1 の (2) で紹介した演劇に関する専門科目を学ぶことが、めざす生徒の育成に大きく関わっている。ただ、その専門科目を指導している特別非常勤講師の高齢化が進んできている。これまで積み重ねてきた指導技術や指導方法などの財産を、次代を担う若い世代に「伝承」していくことが求められている。「伝承」するためには、言葉や文字だけではなく、指導方法などを、実際に目で見て、耳で聴き、心で感じる必要がある。ベテラン講師と若手講師が協働して指導を行なうような「OJT (オンザジョブトレーニング)」を実施し「伝承」を円滑にすることが求められる。さらに、創設以来 35 年の伝統があり、多くの卒業生が社会で活躍していることをメリットと考え、演劇科で育った卒業生を特別非常勤講師として活用することで、これまで積み重ねてきた指導を、うまく「伝承」させ続けていきたい。

#### (3) 「不易流行」…「伝承」と新たなチャレンジ

35 年間宝塚北高校の演劇科が脈々と受け継ぎ、守り続けてきた大切な財産を「伝統」として、これからも「伝承」し続けるとともに、日々変化する社会の中、今の取組のままで満足せず、時代に合った、また、時代を引っ張っていくような、新たな取組にチャレンジすることが求められる。今後も「不易流行」の精神を持ち、「伝承」と新たなチャレンジに取り組み続けていきたい。

以上を課題と考え、今後も、「正しい姿勢」「美しい言葉」「豊かな表現」を基礎とした、「こころ豊かな人づくり」をめざし、本校演劇科とともに歩み続けていきたい。